

大豊町の概要	
位置	東経133度37分 北緯33度56分
面積	320.54平方杆 東西 32杆
	南北 28杆 部落数 86
人口	9,802 男 4,630 女 5,172
世帯数	3,411 3月末日現在住民基本台帳調



昭和57年5月1日発行	
全世帯配布	
編集	館報大豊編集委員会
発行	大豊町中央公民館
印刷	高知印刷株式会社

西峰小学校 校内運動場 新築落成



新築された西峰小学校と屋内運動場

三月三十日、多年の念願を以て建築がなされまし
であった、西峰小学校舎と、工事株式会社、北村
と屋内運動場の落成の式典、建築工事が請負、昨年七月
が盛大に行われました。二十日着工されたこの度の完
もの校舎は五十二年余
の星霜を経て、本町でも一
番古く、早くから危険校舎
として改築の必要に迫られ
ていたが、敷地の整備
等、諸事情から今回の改築
となったものです。
昨年の三月、議会で万場
一致で改築が決議され、校
舎、屋内運動場合わせて一
億七千九百六十七万四千円
出来上がった校舎は、鉄

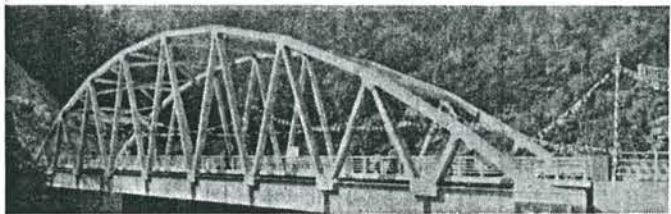
長瀬河原に
喜びの声あふれる



餅投げでにぎわう西峰小

筋コンクリート二階建て延
面積、七五五・七五㎡で一
階が普通教室二、保健室、
職員室、校長室、調理室等
三八七・一八㎡。二階が普
通教室二、家庭、図書室、
理科室、音楽室、その他で
三六八・五七㎡となってお
り、又、屋内運動場は鉄骨
平屋建てで体育競技室はバ
レーボール一面、バスケット
ボール一面、バドミントン
二面、その他ステージ、
更衣室、ホール、倉庫等で
六五五・七〇㎡となっています。
今後は地域の社会体育
の場としても広く活用さ
れることが期待されていま
す。式典の始めには心配さ
れた空模様も祝いの餅投げ
の頃は晴れあがり、陽光の
中、地元民の手造りのお餅
が投げられ、山あい祝いの
歓声が終日こだましてい
ました。

国道439号線昇格と 南小川大橋完成祝う



新しい南小川大橋

「橋は鉄の芸術」の名に
ふさわしく、パインアップル
イエロー色が陽春の光を浴
びてひととき美しく南小川
の清流に映え、さながら一
幅の絵のような感じでした。
その昔、渡し舟で東西の



屋内運動場での小学生の発表



東土居、藤原さん一家
三夫婦の渡り初め

「橋は鉄の芸術」の名に
ふさわしく、パインアップル
イエロー色が陽春の光を浴
びてひととき美しく南小川
の清流に映え、さながら一
幅の絵のような感じでした。
その昔、渡し舟で東西の

交流がなされていて、昭和
十年鉄道開通と同時に豊永
橋が架けられたと聞きます。
以来何回か改修されていま
すが、橋のすぐ西に土讃
本線の踏切り、東は人家
密集地で、ラッシュ時の渋
滞、接触事故が絶えず、交
通のネックとなっていたが
今回の大橋完成で解消され
ました。
同橋は県土木事務所
が五十四年二月から総工費
五億九千万円で建設してい
ました。元の橋の上流五十
材に架けられ、全長七十九
・五材、幅は車道七・二五
材、歩道二・五材からなり
、アーチ橋で付近の緑の
景観によくマッチしていま
す。
落成式は一足先に県道東
祖谷―大杉停車場線が国道
四三九号線(徳島市―中村
市)に昇格した祝いも兼ね
て行われたものです。当日は
県議の西岡先生を始め町執
行部や県土木事務所長、又
隣接町村長も臨席され、神
事の後、東土居の藤原増門
氏一家三夫婦を先頭に地元
民や関係者五〇〇余人によ
る渡り初め式があり、豊小
東土居、藤原さん一家
三夫婦の渡り初め



豊小鼓笛隊の先導で一般の人々も



みんなのにぎやかに渡り初め

で祝いの投げ餅や祝宴が
開かれました。ちょうど通
り合った舟戸の山原英典さ
んのダンブカーが車での渡
り初め第一号でした。
古い橋から感慨深げに眺
める老人、新しい橋を嬉々
として渡る保育園児。その
役割を終える古い豊永橋に
も数々のロマンが、又、新
しい橋には大豊発展と地域
社会をつなぐ大きなかけ橋
となる事を祈りながら人々
それぞれの想いで新しい架橋
の落成を祝い合いました。

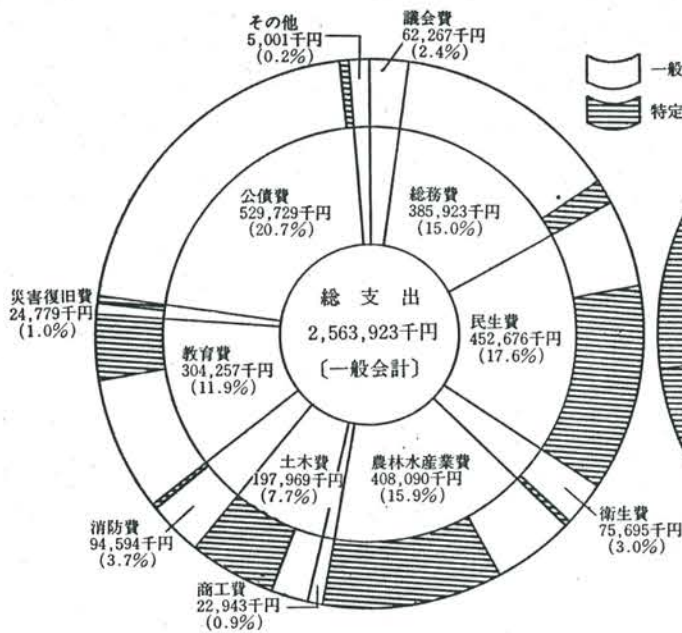
昭和57
年度

当初予算決まる

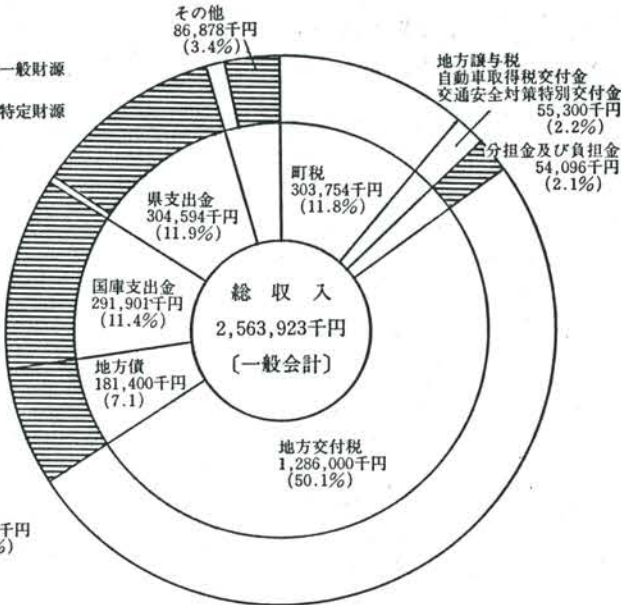
一般会計
国保会計
簡水会計
代替輸送会計

25億6,392万3千円
7億4,378万9千円
5,329万6千円
1,326万1千円

歳出の目的別内訳



歳入の内訳



超緊縮型予算

一般会計は前年度比で
一四・二%の減

定例議会における町長の予算説明要旨

重点施策の概要

項 目	予 算 額	構成率
一、安全な環境づくり	182,869	7.1
(1) 防災対策	127,774	5.0
1 災害復旧対策	24,779	1.0
2 その他防災対策	102,995	4.0
(2) 生活環境対策	53,126	2.0
(3) 交通安全対策	1,969	0.1
二、明るい社会づくり	500,319	19.5
(1) 老人対策	246,856	9.6
(2) 心身障害者対策	12,988	0.5
(3) 母子児童対策	126,414	4.9
(4) 保健医療対策	47,643	1.9
(5) 町民福祉関係対策	66,418	2.6
三、たくましい人づくり	304,057	11.9
(1) 学校教育対策	208,508	8.1
(2) 社会教育対策	23,484	0.9
(3) 青少年対策	9,854	0.4
(4) 文化芸術対策	3,730	0.2
(5) その他	58,481	2.3
四、豊かな町づくり	615,589	24.0
(1) 産業基盤の強化	368,669	14.4
1 道路の整備	368,669	14.4
(2) 産業の振興	246,920	9.6
1 農林業対策	223,506	8.7
2 商業振興	641	0.1
3 観光対策	22,773	0.8
五、その他の行政経費	961,089	37.5
合 計	2,563,923	100.0

『予算編成の背景
並びに過程』

昭和57年度国の予算及び財政投融資計画は、内閣府の景気維持拡大を配意する中、行財政改革の推進と基本路線を堅持して財政再建を強力に推進し、歳出面では経費の徹底した削減を目的として厳格な原資管理、質的内容の充実と景気の維持拡大に配意し、歳入面でも極力見直し、公債発行額を著実に削減すること、を基本方針としており、

「豊かで健康的な住民生活をおくるための生活環境の整備」

町内全域にわたる環状の道路整備事業として、は建設省道路局所管市町村道路は、その実現への基本姿勢は変わりませんが、財政収支の不均衡が恒常化し、その対応力が脆弱となり、事業優先度、緊急度を基調とした事業導入ということになります。

「みんなのしあわせを願い、みんなの力で盛りだくさんな福祉」

高齢化社会の到来、核家族化の進行、児童を取りまく家庭環境の変化、心身障害者の増加等、地域社会を基盤としたきめ細かな福祉サービスの強化、充実が望まれます。

「調和のとれた町づくりのための産業振興」

昭和五十五年度を「産業活性化元年」と銘うち、抜本的な行政機構の整備を行ない、農村総合整備計画を樹立しましたが、本年度は農業振興地域の見直しを図りながら、農村総合整備計画を事業の推進策として策定し、

「未来を担う子供を大切に、生涯教育をとおして郷土を愛し文化を育てる町づくり」

急激な社会変遷の中で生涯教育をとおして郷土を愛し、文化を育てる町づくりを目標に教育行政に取り組み、施設整備につぎましては、急務な事項が山積していますが、現段階では財政的にその対応が困難であり、また地域により児童、生徒の施設格差があり、適性規模の施設設定と学校運営に苦慮しているところであり、

社会教育活動につぎましては、各種県補助事業を導入し、その活動の活性化を図ってまいりましたが、各

「歴史の道」(北山越え)に 木の香も新しい 標柱建立

北山越えといえは、その多くの人に親しまれたもの
昔、土佐から伊予に出る街
道。高知城下から瀬戸内へ
の最短距離、峠一つ越えれ
ばそこは他国、この街道を
行き交う人々は峠の茶屋で
一服し、故郷をはなれる思
いに又、長い旅路を終え
て、やっと故郷に帰るつら
い安堵の気持ちでいっぱい
だったでしょう。その峠、
立川の峠(二〇二七尺)に
木が二本立てていました。
たしかに樹齢あざやか
に「同境」としてのたて
たように思えます。旅人は
この碑を見て同境に立つ感
懐に耽ったことでしょう。
「土佐街道」「北山越え」
「参勤交代道」として
人々に親しまれたこの街
道、古代は官道として利用
されたとも聞きます。藩政
時代は参勤交代の大名行列
や旅人が往来し、戦前まで
は土、予の物資流通のため
の生活道として、又、三角
寺奥の院参りの道としても

この度その同境の碑「榜
木(ボウキ)」を復元する
こととなり、去る三月二十
八日、三市町村の関係者約
百人が高知側の峠ヶ峰登
山口に集まり、まず対面式
を行い、大豊町長、新宮村
長は互に嫁に行ったり、来
たり、つなぐは深い。近
い将来は四国横断自動車道
が抜けることもあり、また
ます交流を深めよう」とあ
いさつがあり、榜木の担ぎ
あげに移った。重さ約二〇
〇キロもある長き四尺の角
材、まずは高知勢が「ヨイ
サ、ヨイサ」の掛け声も勇
ましく先導、意外に早いビ
ッチ。愛媛勢から「土佐の
つくりやつてつかあ……」
の声もかき、和気あふ
いのうちに「三」の急坂
を上り終えた。
榜木には墨の色もよく、
「これより北愛媛県、高知
県、同境」と「これより北
伊予、南土佐、同境」と書



建て終って一同で記念写真



時も近い、重いぞヨイショ



新宮村長と大豊町長、力強く握手

!!高齢者の集い開かれる!!

急速に進む
高齢化社会、
そのことに高
齢者自身どう
対応すべきな
のか、仲間を
考へようと去
る三月二十九
日、農工セン
ターで研修会
と題のひとと
ときをもちま
した。「人に
好かれる老人
とは」と題し
た県立野市青
少年センター
指導員、横
川先生の説教
的な又心理を
ついたユーモ
ア溢れる話に
一同大きくう
なずき、昼か
らは演芸でか
たをほぐした
楽しい集いで
した。



横川先生の話を耳を傾ける皆さん

高齢者の集いにあつまつた方々

『三世代学習』

立川地区文化祭

地区ぐるみで!!

地域に根ざした教育を、
児童数十一名の立川小学校
で五十六年、三世代の補助
学級を導入、そしてその総
決算とも言える地区文化祭
が開かれました。
小学校の先生方が、毎週
一回夜間に熱心に指導した
メロディオンと大正琴のク
ラブのメンバー、老人クラ
ブの会員、PTA、青年
団、子供達も一年間地域に
残る民話を集め、その民話
にもとづく劇を上演、手造
りの民芸品も展示、学校教
育だけで学べないものを、
学校を中心とした地域ぐる
みで育てる、過疎地の小規
模校ならではの独特のもの
があります。
青年団の若者は、熱っぽ
い口調で、林業の将来を論
じて、今後の交流と親交を
開いた。互にのど自慢も
ありました。



自分達で取材した民話をもとに創作劇を上演、立川小の児童

次代の林業を担う後継者
の育成強化を図るため各地
域のリーダーや模範的な林
業青年に「青年林業士」の
称号を授け、模範的な後継
者として地域のリーダー
たしてもらうこと、県の認
定式が去る一月十八日、県
庁正庁ホールで行なわれま
した。大豊町からは、一の
瀬の吉川覚士さん(三十四)が
認定証を授けられました。
吉川さんは大豊町一の瀬
に於て吉川林業を営み、一
定されました。

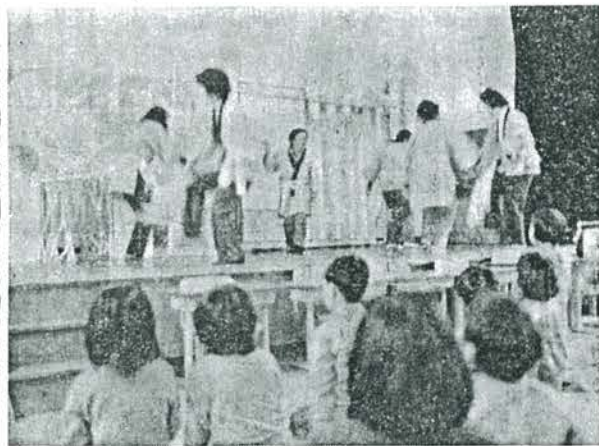


吉川覚士さん

青年林業士誕生

一の瀬

その熱意と経営手腕は高く
評価され、林業経営の指
導者として町の林業振興協
議会及び林研グループ等に
属し林業の振興に幅広い活
躍をされております。
「青年林業士」とは、林
業に携わる二十五〜三十五
歳の青年で、県が実施する
林業教室や講習会を優秀な
成績で修了。さらに、林業
称号を授けられ、模範的な
後継者として地域のリーダ
ーとして活躍すること、県
の認定式が去る一月十八日、
県庁正庁ホールで行なわれ
ました。大豊町からは、一の
瀬の吉川覚士さん(三十四)が
認定証を授けられました。
吉川さんは大豊町一の瀬
に於て吉川林業を営み、一
定されました。



お年寄りもまじって花とり踊り



青年団員の桃太郎劇



5月5日こどもの日

健やかな子供の成長を願って



の成長を願って

5月5日~11日・児童福祉週間

